

クラクションで周囲に知らせて



クラクションの鳴らし方について説明を受ける園児＝三養基郡上峰町の「ひよ子こども園かみみね」

静岡県の認定こども園で園児が通園バスに取り残されて熱中症で死亡した事件を受け、園児を対象にした車内に取り残された場合の対応訓練が27日、三養基郡上峰町の認定こども園「ひよ子こども園かみみね」で行われた。車内に残されたことを周囲に知らせる手だてとして、運転席でクラクションを鳴らす方法を指導。園児らは実際に体験して、万一の場合の対応を覚えた。

バス取り残し対応訓練 上峰のこども園、静岡の事件受け

同園は通園バスを運行していないが、月に1、2回ほど工場見学などの園外保育のためバスを使用している。訓練には園児23人が参加し、職員が両手を使って力強く押すことや、力が足りずに音がならない場合には、ハンドル部分に座っておしりで押すことをアドバイスした。

池松英治園長(53)は「子どもは緊急時、パニックになりやすい。自家用車でいざ知らずることが増えてしまうかもしれないが、助けを知らせる手段を持っているのと持っていないのでは大きく違う。全国的に取り組むべき訓練」と話した。

静岡県の事件を受け、全国的に対策を徹底する動きが出ている。政府は職員が園児を見落とさないようにする警報ブザーなど安全装置の設置を義務化する方向で調整に入った。佐賀県でも独自に各施設に対策を周知する方針を示している。

県内の幼稚園、保育所、認定こども園計303施設を対象に、県が昨年実施した運用状況に関するアンケートでは、過去に4つの施設で園児が一時置き去りになるケースがあったという。県こども未来課は「通園バスの駐車場が建物から近い、遠いなど施設によって環境はさまざま。人的ミスが起こりうることも想定し、適切な対策を講じたい」と話した。(井手一希)

